

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Content includes 0170401053, 株式会社元気な介護, グループホームくらしさ手稲, 札幌市手稲区富丘2条6丁目2-1, 令和3年2月1日, 令和3年3月23日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0170401053-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Content includes 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット, 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401, 令和3年3月4日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームくらしさ手稲では、元気な介護の経営理念である「暮らしを支え、心を磨く」の具現化を目指し、全職員が同じ方向に向かって取り組めるよう、日々の朝礼や会議等で話し合いの場を多く取り入れております。入居者様にはできる限り家庭的な環境の下、それぞれが個々での役割を持ちながら、その方らしい生活が送れる様支援しています。行事食やレクリエーションを毎月行い、入居者様に楽しんで頂いたり、季節ごとに装飾物を入居者様と職員で手作りし季節を感じて頂きながら生活をさせております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「くらしさ手稲」は、この3月で丸17年が経過する2ユニットの事業所である。最寄りのJR駅から徒歩10分程の住宅街に位置し、バス停も近く、買い物に便利な大型商業施設や区役所、病院も点在し、稲積公園や富岡西公園、三樽別川緑地も徒歩圏内に在るなど、緑に恵まれた快適な環境にある。運営法人は幅広く介護事業を展開する中で、職員が目指す方向性や整合性の取れるケアサービスの実践に向けて、あえて法人の「暮らしを支え、心を磨く」の経営理念と「思い遣り」の社訓を共通理念として示し、意識統一を図っている。事業所は、共用型デイサービスを導入して(通常3名可能)、地域の認知症高齢者の支援も見据えた運営を目指しており、利用者は日々友達を迎え入れ一緒に過ごす感覚を味わい、楽しみや活動の機会が広がっている。(コロナ禍で現在は利用は1名)例年は、ハロウィンの衣装をした地域の子供達の訪問を受けたり、運営推進会議にも地域住民の参加を得るなど交流を育んでいるが、今年度は面会や外出を制限している。そんな中でも、利用者のストレスを軽減し、安定した生活となる様に、職員は様々な行事やレクリエーションを工夫し、特に手作りおやつレクを頻繁に行うなど、メリハリのある生活の提供に取り組んでいる。職員は「できる」を大切に、個人を尊重し、利用者に寄り添うケアを目指している。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects like staff understanding, staff interaction, user independence, staff support, user outdoor activity, user health, and user support.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時には新入社員研修への参加をして頂き学ぶ機会を設けています。また、毎日事業所では朝礼ミーティング時に共有ができるよう1階2階合同で唱和も行っています。	経営理念である「暮らしを支え、心を磨く」を基軸に、毎朝唱和し、要所に掲示する事で意識付けを図り、理念の具現化に努めている。入社時にも理念を踏まえた基本姿勢を伝え、意識統一に繋がっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所のお祭り時には声を掛けさせて頂いたり、町内会の新年会や総会時には参加させて頂き交流の場を設けております。	今年度はコロナ禍で面会や外出が自粛となっているが、例年では町内会行事や事業所主催の秋祭り、ボランティア訪問などの機会を生かし、人々との係わりを積極的に持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の集まりなどに参加させて頂きご挨拶をさせて頂くなど理解して頂ける様努めております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議時にはご家族様・地域包括・町内会会長・民生委員等出来るだけ多くの方に参加して頂ける様にし、報告をすると共に、助言や情報交換を行っております。	運営推進会議は年6回、包括支援センター職員、町内会役員、民生委員、家族の参加を得て開催しているが、今年度は事業所内会議としている。運営に関する定例報告に加えて、感染症対策、ヒヤリハットや事故報告等を行い、透明性を図り事業所への理解に繋がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市や手稲区の管理者会議に出席したり、近隣のグループホームの管理者様とも電話連絡等で情報交換を行っております。	所長を中心に行政と協力関係を築いている。感染症対策においては市介護保険課や保健所と随時情報を共有し、指示等を仰いでいる。認定更新や生活保護課とは情報を共有し連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の開催と共に研修を行い、学ぶ機会を設けております。	法人全体で指針及びマニュアルを整備し、委員会と内部研修を定期的に行い、身体拘束の弊害について学んでいる。3か月毎の自己点検で、サービス提供場面を振り返り確認を行い、拘束や抑圧感の無いケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修時には虐待の芽チェックの自己点検を定期的に行い、虐待防止に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されていた方がいた為、研修等で学び職員との共有を行っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は時間をかけ説明を行い理解・納得をして頂ける様に対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様へのアンケートの実施や、お電話や面会時に出来る限りお話をし、その情報をケア会議等で職員の共有を行い対応しています。	感染症対策上、面会は自粛しており、利用者の様子は主に電話で伝え、家族の意向の聞き取りにも努めている。運営本部は家族アンケートを実施し、職員の接遇評価を行い、運営に反映させている。事業所便りとケア記録を毎月郵送し、家族の安心に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談と共に、朝礼時や会議等で話し合う時間を設け働きやすい環境作りに努めています。	所長は日頃から職員とコミュニケーションを図り、朝礼時や会議、個人面談の場で意見や提案を聴き取り、運営やケア、レク活動等に生かしている。評価制度を導入し、目標設定や自己評価を行い、各自の就業意欲向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自目標を設定し自ら評価を行いやりがいや向上心を持ち働けるよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修への参加を促し、学ぶ機会を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の管理者会議へ出席し、他の管理者の方々との情報交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	利用開始前にはご本人様やご家族様と直接お会いしお話をする時間を作り関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に直接お聞きし要望等お聞きしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	開始する際には直接お会いし必要としている支援を見極める事が出来る様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様と馴染みの関係を築ける様尊厳を尊重しながら支援させて頂いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙や電話での連絡、面会時には近況報告を行っています。また、面会時には自室にてご本人様とゆっくり過ごして頂ける様配慮しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係性が継続できるよう、お電話やお手紙等でやり取りを行っていたり、ご家族様やご本人様の希望に沿う事ができるよう支援しております。	今年度はコロナ禍で直接的なふれあいは難しい状況であるが、これまで培ってきた関係を断ち切らないように、電話や手紙等のやり取りを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する事が無いよう職員が間に入りながら関りが持てるよう対応しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去をされた後でも相談をして頂き易い関係を築ける様、支援しております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様からの希望や要望をお聞きし会議等で話し合い情報共有しながら意向に沿ったケアを提供できるよう支援しています。	意思疎通が可能な場合は、普段の何気ない会話の中から思いを汲み取り、困難な場合は家族からの聞き取りや過去の生活歴などから把握し、満足感に繋がる支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様からの情報を職員間で共有し把握出来る様務めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の情報は職員間で共有し現状把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス時にモニタリングを行い、訪問診療や訪問看護、訪問歯科の意見も取り込みながら見直し等行っております。	モニタリングで得た情報を基に、カンファレンス時に職員間で協議、検討し、本人、家族、医療関係者等の意見を反映させて定期的に見直している。急変時は随時見直しをかけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気づきはノートを活用し職員間で情報共有しております。かたカンファレンス時にも意見交換しプランの見直しも行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に応じ柔軟な支援やサービスを行える様務めております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の集まりなどに参加させて頂いたり、お会いした際には声を掛けて頂いたりしております。また、小さなお子様が行事に顔を出してくれたりとお交流を図っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療をして頂き、医師と連携を取りながら行っています。また、必要に応じて医師とご家族様もお話する機会を設けています。	本人、家族の希望を優先した受診支援であり、殆どの利用者は、協力医療機関の月2回の訪問診療を受けている。かかりつけ医や専門医への外来受診は家族と職員で支援しており、家族は直に医師と話す機会も有る。週1回の訪問看護師と連携し利用者の健康維持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の情報や気付きは情報交換を行っています。看護師訪問の際は相談し助言をいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院側との情報交換を行い退院時に向け体制を整え、会議等で情報共有しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	終末期に向けてご本人様やご家族様の意向をお聞きし、何度も話す機会を設け医師や看護師とも連携を取りながら支援できるよう対応しています。	重度化した場合や終末期については、入居時を始めた段階に応じて話し合いを重ねている。重篤時には改めて、家族、介護職員、医療関係者を交えて方針を共有し、本人、家族の想いに寄り添った看取りケアにチームで臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修へ参加をしたり情報交換を会議等で行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を行ない、災害対策マニュアルの作成や防災訓練等、学ぶ機会を設けています。	年2回の避難訓練はコロナ禍により自主訓練となっている。災害対策マニュアルを基に、様々な災害を想定し図上訓練を行い学んでいる。非常用備蓄品を確保している。	前回掲げた目標の中で、コロナ禍にあって実現困難であった項目を、継続して取り組む事を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で接遇の研修を行い、入居者様やご家族様、職員同士の声掛けについても日々の朝礼時にお話する様にしています。	職員は新人研修や接遇研修でケアの基本を学んでいる。特に気になる言葉遣いについては、朝礼時等で指導し、人格を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様には直接希望をお聞きしたり、難しい方へは表情等で判断したり、得た情報は職員間で会議やノートの活用で共有しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望に沿った暮らしを提供出来る様職員間で話し合い支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様に洋服を選んで頂ける様、声掛けお行ったり見守りを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事やお誕生日には特別食を提供し、楽しく食事をして頂ける様対応しています。また、おやつ等は入居者様と一緒に手作りする日もあります。	日常食は委託しているが、誕生日会や季節の行事食では利用者の希望を取り入れ職員が準備し、手作りに拘り調理している。時には、蕎麦打ちや出前寿司、バーベキューで変化を楽しんでいる。おやつレクでは、一連の作業と一緒に楽しみながら達成感や満足感を共感している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が偏らない様声掛け・見守りを行いながら、見た目等にも工夫しながら提供しています。献立は管理栄養士が作成しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや見守りにて行っています。また歯科衛生士に口腔ケアの方法等お聞きし情報共有しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、できる限りおトイレでの排泄を心がけています。一人ひとりおむつ等は検討し不快の無いよう支援しています。	利用者毎の排泄パターンを職員が理解し、習慣を生かしながら、立位可能な場合には基本トイレでの排泄、自立に向けた声掛け誘導を行っている。オムツやパット類は時間や状態によって使い分けるなど、快適さを求めて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量の確認と、便秘予防の為体操を行ったりしています。また、場合によっては医師や看護師に相談し対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に合わせた声掛けや、時間等を把握し、ゆっくりと入浴が行える様支援しています。	毎日入浴出来る体制である。利用者のその日の体調や様子を伺い、声掛けを工夫し、ゆっくりと湯船に浸かり寛げるように支援している。状態によっては、シャワー浴や清拭で衛生保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し安心して気持ちよく休んで頂ける様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の情報はファイルにまとめ確認がすぐに行える様になっています。また服薬ミスが怒らない様3重のチェックを行い対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事と出来ない事の見極めをし、役割や楽しみ事を持って生活できるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人やご家族様の希望がある際には外出できる様支援しています。また、気分転換の為暖かい日には近隣へのお散歩などで外気に触れる時間を設けています。	通常時は、季節のドライブや外食、散歩、家族の支援で外出、外泊、墓参りなどの戸外活動を行っているが、現在は外出行事を自粛しており、事業所内換気のための窓開放の機会を五感刺激に生かしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いはホームにて管理をしております。ご本人様から希望があった場合はご家族様に相談し対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からのお手紙やお電話などその都度対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節を感じられる装飾を飾ったり湿度や温度にも配慮しながら居心地の良い空間づくりに努めています。	事業所内の温・湿度の管理、換気、手摺などの消毒を徹底し、感染予防に努めている。団らんの場には、利用者と共に作り上げた季節の飾りを施し、台所からは調理の音や匂いが漂い、家庭的で温かみのある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他入居者様との関りを持てるよう、席の配置を定期的に行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで住まれていた、馴染みの物や安心して頂けるようなものを入居の際は持って来て頂けるようにしています。	入居時には家族と相談の上、出来るだけ馴染みの品を持参する様に依頼している。生活に必要な家具、調度品、仏壇などを持ち込み、写真や自作品などを飾って、暮らし易い環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々で出来る事や分かる事を把握し、できる限り自立した生活を送れる様、職員間で共有し対応しています。		